



2024年5月30日

各位

会社名 **SMC株式会社**
代表者名 代表取締役社長 高田 芳樹
(コード: 6273 東証プライム)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション室 加藤 昭範 長
disclosure@smcjpn.co.jp

(訂正)「2024年3月期 決算説明会資料」の一部訂正について

2024年5月15日に公表しました「2024年3月期 決算説明会資料」について、訂正を行いましたので、お知らせします。

1) 訂正の理由

- ① 「2024年3月期 決算説明会資料」に一部誤りがあったため、訂正します。
- ② 北米での受注データを精査し、関連する受注動向の数値及びグラフを更新しました。

2) 訂正の内容

<PDF 14 ページ(スライド上のページ番号 10 ページ)>

【24年度業績予想値 vs23年度実績比】売上高・営業利益増減要因 ②営業利益

【訂正前】 +287 億円

【訂正後】 +377 億円

<PDF 15 ページ(スライド上のページ番号 11 ページ)>

【足元の受注動向(FY22=100)】

【訂正前】

		FY23	‘23/3Q	‘23/4Q	‘24/04
連	電機	70	64	72	88
	自動車	84	81	79	85
	工作機械	82	80	81	92
	食品	91	89	93	99
結	医療	82	75	84	92
	その他	91	89	94	89
	北 米	78	71	78	64
	連 結	81	77	82	91

【訂正後】

		FY23	‘23/3Q	‘23/4Q	‘24/04
連	電機	70	65	73	89
	自動車	84	81	79	85
	工作機械	82	79	81	92
結	食品	91	89	93	97
	医療	81	76	79	97
	その他	91	91	94	100
北 米		78	75	79	76
連 結		81	77	82	93

〈PDF 15 ページ(スライド上のページ番号 12 ページ)〉

【受注推移(業種別)】

※上記の受注動向の数値更新に伴い、グラフを修正します。

〈PDF 16 ページ(スライド上のページ番号 13 ページ)〉

【受注推移(地域別)】

※上記の受注動向の数値更新に伴い、グラフを修正します。

3) 添付資料

訂正後の資料を添付します。

以 上

2024年3月期
決算説明会資料
(決算短信補足資料)

[2024年5月15日開催]

SMC株式会社

2024年3月期 決算説明会

2024年5月15日

SMC株式会社

代表取締役社長 高田 芳樹

Supporting Automation



2024年3月期決算サマリー

日本・アジア・北米など各地域で設備投資抑制の動きが継続。円安のプラス影響はあったが、販売数量減により、減収減益。

業種別では、半導体関連が引き続き低迷。自動車関連は、欧米を中心にEV関連投資はあったが、中国のEVバッテリー需要が大きく減少。工作機械関連は半導体関連需要の不振や中国の景気減速などにより、調整局面が継続。

設備投資は、修正計画1,000億円に対し、ほぼ計画通りの1,055億円を実施。

期末配当は500円とし、年間配当は950円。自己株式取得約300億円実施と併せて、総還元性向50%を維持。

(億円)

	22年度 実績		23年度 実績		前年度比 (22年度 vs 23年度)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	8,247		7,768		-478	-5.8%
売上原価	4,036	48.9%	4,137	53.3%	101	2.5%
売上総利益	4,211	51.1%	3,630	46.7%	-580	-13.8%
販売管理費	1,629	19.8%	1,668	21.5%	38	2.4%
営業利益	2,582	31.3%	1,962	25.3%	-619	-24.0%
経常利益	3,059	37.1%	2,510	32.3%	-549	-18.0%
当期純利益	2,246	27.2%	1,783	23.0%	-462	-20.6%
期中平均為替レート						
ドル	135.56		144.58		+9.02	6.7%
ユーロ	141.05		156.74		+15.69	11.1%
人民元	19.75		20.13		+0.38	1.9%
減価償却費	257		333		75	29.4%
研究開発費	273		311		37	13.8%

2025年3月期ガイダンス

売上は、足元は半導体関連の低迷、インフレ、中国の景気後退懸念等、厳しい経営環境ではあるが、景気の底は打っており、年半ばから後半にかけて半導体の本格回復、欧米を中心にEVシフトによる自動車関連需要の増加、人手不足による自動化・省力化需要の増加を見込み、増収を計画。

営業利益は、販売数量増、稼働率の改善、在庫評価減の減少等により、増益を計画。

設備投資は、2026年度売上高1兆円に向け、生産能力の確保とBCP対応のため、引き続き積極的に行い、1,200億円を想定。

配当は、中間配当500円、通期1,000円を計画し、事業の成長と株主還元を両立。

	22年度 実績		23年度 実績		24年度 予想		23年度比 (23年度 vs 24年度)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	8,247		7,768		8,400		631	8.1%
売上原価	4,036	48.9%	4,137	53.3%	4,280	51.0%	142	3.4%
売上総利益	4,211	51.1%	3,630	46.7%	4,120	49.0%	489	13.5%
販売管理費	1,629	19.8%	1,668	21.5%	1,780	21.2%	111	6.7%
営業利益	2,582	31.3%	1,962	25.3%	2,340	27.9%	377	19.3%
経常利益	3,059	37.1%	2,510	32.3%	2,740	32.6%	229	9.2%
当期純利益	2,246	27.2%	1,783	23.0%	1,940	23.1%	156	8.8%
期中平均為替レート								
ドル	135.56		144.58		146.00		+1.42	1.0%
ユーロ	141.05		156.74		158.00		+1.26	0.8%
人民元	19.75		20.13		20.50		+0.37	1.8%
設備投資	815		1,055		1,200		144	13.7%
減価償却費	257		333		440		106	31.9%
研究開発費	273		311		350		38	12.4%
年間配当(円)/株	900		950		1,000		50	

2025年3月期の戦略

1. 半導体サイクル回復への対応
2. EV・2次電池関連需要への対応
3. 「4 BAR FACTORY」の推進
4. 代理店を活用した販売先多角化
5. 中国マーケットにおける地産地消の推進
6. BCPを考慮した生産能力・調達能力拡大
7. 顧客の要望を実現する開発力の向上
8. 人的資本の充実・サステナビリティ
9. GHG排出量の削減に向けた取り組み

半導体サイクル回復への対応

1. エンドユーザー・装置メーカー軸①

- ・スペックイン済の日・米中心の既存ユーザーにおける販売を積み上げ

世界大手の半導体製造装置メーカーであるアプライドマテリアルズ様から、品質、サービス、納期、配送、コスト、対応の早さなどの点で優れたパフォーマンスを発揮したサプライヤーに贈られる「サプライヤー エクセレンス2024」を受賞。3月13日、アプライドマテリアルズ様の幹部の皆様がSMC本社を訪問され、表彰のセレモニーが行われた。



半導体サイクル回復への対応

2. 製品軸

半導体業界の要望に対応した製品を開発・販売

・チラー

GHG規制強化への対応として、CO₂やGWP(温暖化係数)の低いフロンを冷媒に採用した新製品を発売

省電力 (競合機種との50%以下)

省スペース (従来比21%減)

・スリットバルブ

動作に際して放出されるパーティクルが僅少

半導体業界向けサーモチャージ フロンレス(CO₂冷媒)対応のご案内

GWP:1 (低GWP冷媒)
EU規格値: GWP150以下
米国規格値: GWP100以下
カリフォルニア州規格値: GWP70以下

空冷可能
省スペース・省電力
省メンテナンス
省騒音

省電力向上
省スペース・省電力
省メンテナンス
省騒音

フロン充填
省スペース・省電力
省メンテナンス
省騒音

フロン充填
省スペース・省電力
省メンテナンス
省騒音

フロン充填
省スペース・省電力
省メンテナンス
省騒音

型番: R454C0003

低GWP冷媒対応 冷凍式サーモチャージ

GWP:148
EU規格値: GWP150以下
米国規格値: GWP100以下
カリフォルニア州規格値: GWP70以下

DCインバータ冷凍機とインバータポンプでさらに大幅な省エネを実現。

HRZF Series

省電力性能: フロン充填
省スペース性能: 20~90℃
省メンテナンス性能: 10h
省騒音性能: ±0.1℃

300mm口径対応 平行シール型スリットバルブ

長寿命 300万回 (常運転) **吐出量 1/5以下に低減 (従来品比)**

メンテナンス性
ベローズ交換可能
ワンタッチセパレーター

省エネ
空気消費量22%削減
省スペース

吐出量
14kg (標準)

吐出径
50mm/38mm

最大圧力
1.0×10⁵Pa (abs)

XGTP Series

半導体サイクル回復への対応

3. エンドユーザー軸②

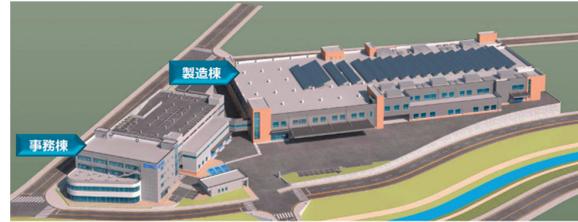
- ・ 欧州・台湾・韓国ユーザーへのスペックインによる販売先の増加
- ・ 現地での大規模ユーザー対応のための経営資源投入を計画

欧州：現地生産、サービスセンター拡充（投資額 約60億円）
 台湾：販社の本社移転、サービスセンター設置（投資額 約70億円）
 韓国：生産・アフターサービスを担うテジョン第2工場建設（投資額 約90億円）

テジョン第2工場建設計画

工事名	2024年								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
敷地整地及び基礎掘削作業	完了								
トータル及び補強土掘削工事	完了								
パイル工事	完了								
基礎及び鉄筋コンクリート工事	進行中				
鉄骨工事	準備中				
パネル及び防水工事				
建具及びタイル工事				
機械設備及び試運転					
竣工									竣工式：2025年2月予定

- 建築概要
- 敷地：7,645坪
- 延面積：10,015坪(製造棟 + 事務棟 + 付帯施設)



EV・2次電池関連需要への対応

1. 2024年度見通し

- ・ 全体的には前年度より回復するがFY2022レベルには戻らないと予想
- ・ 中国市場はFY2022レベルには戻らず

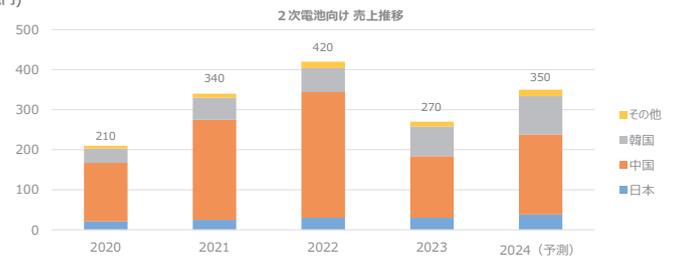
2. 米国市場

- ・ IRAを契機とした自動車各社の米国での投資案件をフォロー
- ・ EV、2次電池関連の投資は少しトーンダウンも中止には至らず

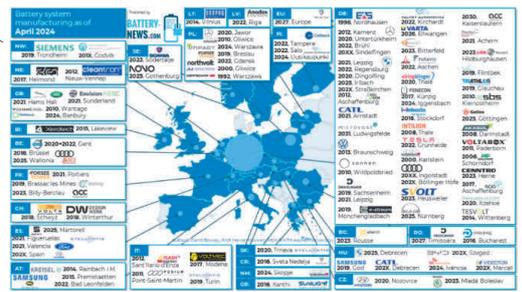
3. 欧州市場

- ・ 投資案件フォロー
- ・ GHG排出削減、EVへのシフトの流れは継続

(億円)



欧州で進行中のEVバッテリープロジェクト



「4 BAR FACTORY」の推進

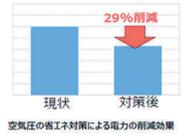
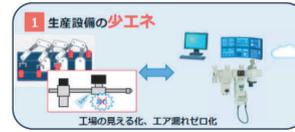
1. ユーザーの生産ラインにおける使用電力の削減を提案

- ・コンプレッサーの空気圧を4気圧(0.4MPa)まで下げ、圧縮空気を作るための電力消費を削減
- ・当社製品AMS(Air Management System)による空気配管内の空気圧管理、リサイクル増圧弁による局所増圧
- ・一連の省エネ製品群への切り替え

2. 自社工場の「4 BAR FACTORY」化

- ・自社工場のショールーム化・低圧化を推進し、ユーザーに見学していただく
- ・自社のGHG排出量削減(スコープ2)にも貢献

3. 行政との連携により、ユーザーの設備投資が各種省エネ補助金対象となるよう対処



※新製品：多角形状ピストンシリンダー

異形の面積の広いピストンの使用により、低圧でも出力を維持できる

代理店を活用した販売先多角化

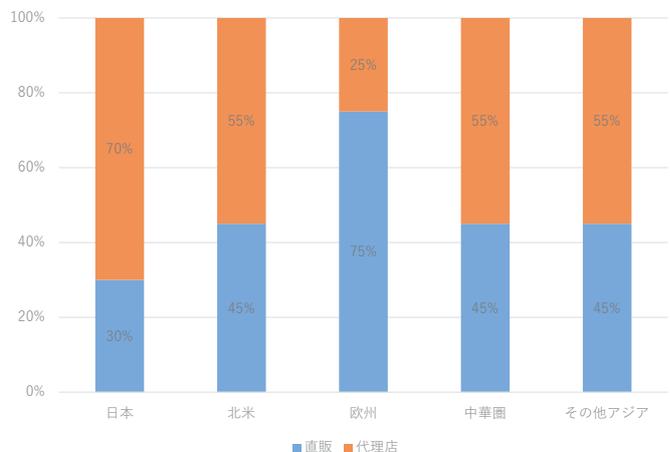
1. 直販人員7千人超の生産性の向上

- ・直販人員は中規模以上の販売先の深耕や新規開拓に集中して取り組む
- ・CRMで蓄積したアプリケーションベースでグローバル共有し顧客開拓を進める
- ・グローバル契約ユーザーとの各国での取引深耕を進める

2. 代理店販売の拡大による販売先の多角化

- ・独自の販路を持つ代理店の開拓と、代理店も活用した販売先の多角化

直販・代理店比率



中国マーケットにおける地産地消の推進

1. エアシリンダを中心とする汎用的な製品をグローバルに供給する使命は、中国から、労働コストが低く、地政学的リスクの低いベトナム等にシフトしていく
2. 現在の中国の生産能力は、現地（中国国内）で販売する製品の生産・ノックダウン生産へシフトしていく
3. 中国工場における部品の内製化や、現地調達部材の使用を促進することで、製造原価を低減し、販売価格の柔軟性を確保していく



BCPを考慮した生産能力・調達能力の拡大

1. 今期も引き続き1千億円以上の設備投資を継続、今後の需要拡大に備える
2. 部品材料の調達先を海外にも広げ多角化する
3. 国内協力企業からの安定調達を主目的として遠野サプライヤーパークを建設中

遠野サプライヤーパーク 完成予想図



用途		地域	2023年度		2024年度計画	
			実績	案件	計画	案件
製造	国内	266	遠野工場 釜石工場 下妻工場	309	遠野工場 下妻工場 釜石工場	
	海外	308	ベトナム製造 中国・天津・北京製造 SMC アメリカ SMC 韓国	571	ベトナム製造 SMC 韓国 中国・天津・北京製造 SMC チェコ	
本社 開発 販売 物流	国内	354	新技術センター 新本社 東西ロジ	111	新本社 新技術センター 東西ロジ	
	海外	127	SMC チェコ SMC アメリカ SMC ドイツ SMC 中国（販売） SMC オーストラリア	209	SMC 中国（販売） 中国開発拠点 SMC 台湾 SMC オーストラリア SMC マレーシア	
合計		1,055		1,200		

顧客の要望を実現する開発力の向上

1. 千葉県柏市に研究開発の中核拠点となる、新技術センターを建築中（2025年9月完成予定）
2. 海外の4つの技術センター（米・独・英・中）の経営資源充実
3. グローバルに、優秀な開発者を集め、ユーザーの欲する製品の開発を加速する



(仮称)柏の葉キャンパス新技術センター 完成予想図

所在地	千葉県柏市若葉
概要	5階建て建物 3棟
敷地面積	42,794㎡
建築面積	29,407㎡
延床面積	85,320㎡
総投資額	1,200億円
従業員数	1,300名
着工	2023年12月
完成予定	2025年9月

人的資本の充実・サステナビリティ

1. 2025年3月に東京・京橋に本社移転。グローバルに優秀な人材が集う場所に。
2. サステナビリティ ウェブサイトを開設



トップメッセージ
産業の「自動化・省力化」を通じて、
サステナブルな未来を切り拓きます。

※注：本社は現在東京に本社を移転したところ、まだ一部の事業が分譲に押されています。このため、一部の事業は、東京の別のビルに本社を移転しています。会社は継続的に稼働を確保することを優先してまいります。産業の「自動化・省力化」を実現することで、社会全体の「自動化・省力化」に貢献できると考えています。そして、経営の効率化、生産性の向上を実現するために、自動化・省力化の導入を進めています。この取り組みは「SMC SDCS TARGET」に定めた、具体的な目標に基づいて、サステナブルな未来を実現するために、グローバルに推進してまいります。

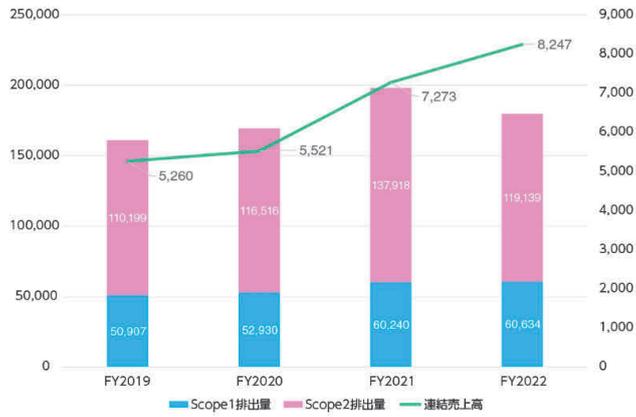


SMC株式会社 代表取締役社長
高田 芳樹

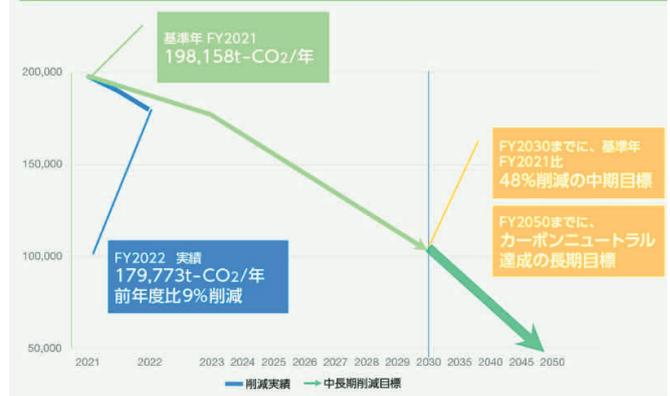
GHG排出量の削減に向けた取り組み

自社のエネルギー消費に伴うGHG排出量(Scope1+2)について、2030年度に48%削減、2050年度にカーボンニュートラルの目標を設定

SMCグループのGHG排出量 (Scope1+Scope2)



SMCグループのGHG排出削減目標 (Scope1+Scope2)



Supporting Automation

2024年3月期 決算説明資料

2024年5月15日

SMC株式会社

取締役執行役員経理部長 太田 昌宏

Supporting Automation



連結損益計算書推移

(億円)

	22年度 実績		23年度 実績		前年度比 (22年度 vs 23年度)		23年度 業績予想		23年度		23年度		前四半期比 (23/3Q vs 23/4Q)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率	金額	達成率	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	8,247		7,768		-478	-5.8%	7,670	101.3%	1,890		1,942		51	2.7%
売上原価	4,036	48.9%	4,137	53.3%	101	2.5%	3,990	103.7%	968	51.2%	1,112	57.3%	144	14.9%
売上総利益	4,211	51.1%	3,630	46.7%	-580	-13.8%	3,680	98.7%	922	48.8%	830	42.7%	-92	-10.0%
販売管理費	1,629	19.8%	1,668	21.5%	38	2.4%	1,670	99.9%	421	22.3%	419	21.6%	-1	-0.5%
営業利益	2,582	31.3%	1,962	25.3%	-619	-24.0%	2,010	97.6%	500	26.5%	410	21.1%	-90	-18.0%
経常利益	3,059	37.1%	2,510	32.3%	-549	-18.0%	2,320	108.2%	509	26.9%	654	33.7%	144	28.4%
当期純利益	2,246	27.2%	1,783	23.0%	-462	-20.6%	1,700	104.9%	425	22.5%	410	21.1%	-15	-3.6%
期中平均為替レート														
ドル	135.56		144.58		+9.02	6.7%	145.00		147.85		148.62		+0.77	0.5%
ユーロ	141.05		156.74		+15.69	11.1%	154.00		159.04		161.32		+2.28	1.4%
人民元	19.75		20.13		+0.38	1.9%	19.80		20.43		20.62		+0.19	0.9%
減価償却費	257		333		75	29.4%	330	101.1%						
研究開発費	273		311		37	13.8%	300	103.8%						

【FY22 vs FY23】売上高・営業利益増減要因

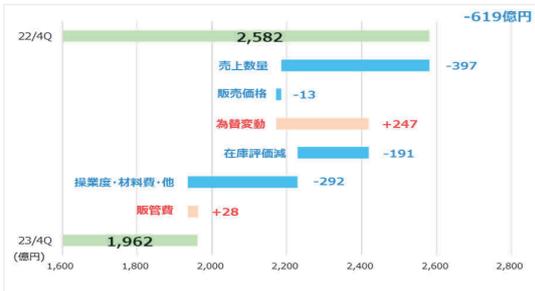
①売上高



(億円)

- < 売上数量 > 前年度比 9%減少
日本 -218 (-12%)、北米 -102 (-8%)
中華圏 -317 (-14%)、他アジア -80 (-7%)
- < 販売価格 > 前年度比 0.2%低下
日本 +34、海外 -48 アジアが低下傾向にある
- < 為替変動 > 前年度比 4%増加
北米 (米ドル中心) +97
欧州 (ユーロ中心) +96
中華圏 (人民元中心) +42

②営業利益



- < 為替変動 >
・取引 (外貨輸出・仕入) 要因 +206
・決算 (海外子会社P/L換算) 要因 +40
- < 在庫評価減 >
・在庫回転率低下、評価減増加
- < 操業度 >
・生産物量減少による操業度低下
- < 販管費 >
・運送配送費 +19、寄付金 +14、減価償却費 -13

【FY23/3Q単独 vs FY23/4Q単独】売上高・営業利益増減要因

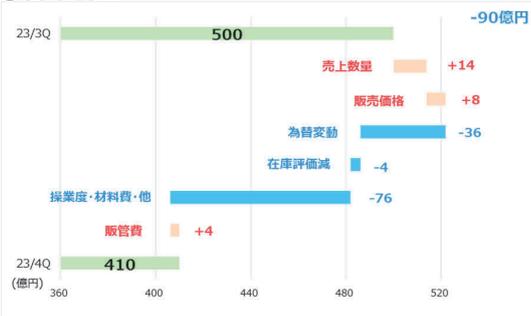
①売上高



(億円)

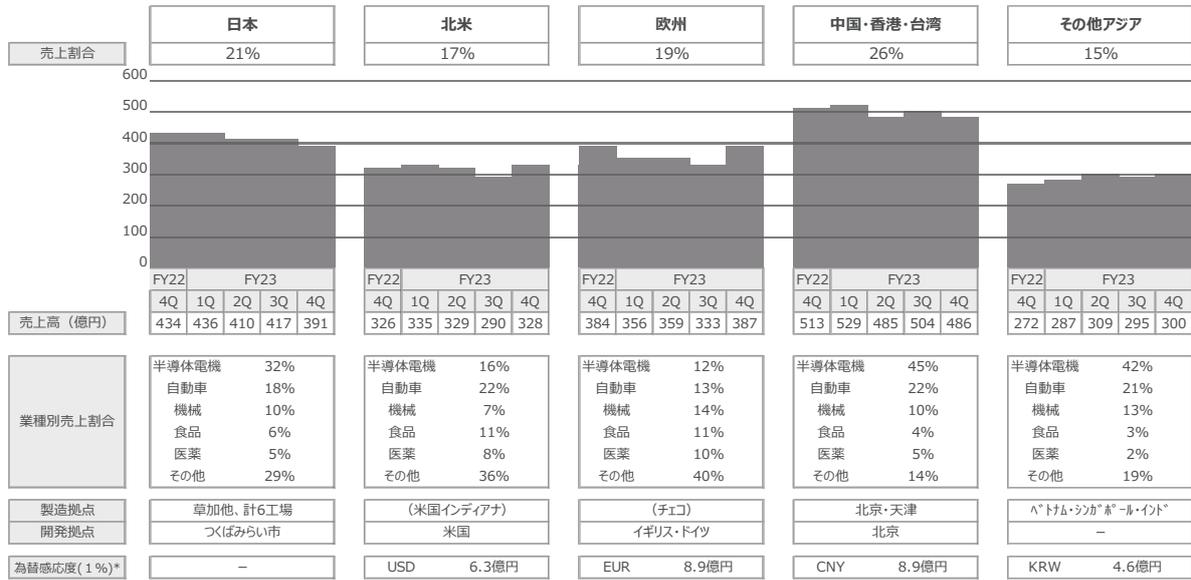
- < 売上数量 > 3Q比 2%増加
日本 -20 (-5%) 北米 +31 (+11%) 欧州 +50 (+15%)
中華圏 -36 (-7%) 他アジア +3 (+1%)
- < 販売価格 > 3Q比 0.5%上昇
日本 -5、海外 +14 アジアで増加
- < 為替変動 > 3Q比 1%増加
北米 (米ドル中心) +2
欧州 (ユーロ中心) +3
中華圏 (人民元中心) +4

②営業利益



- < 為替変動 >
・取引 (外貨輸出・仕入) 要因 -38
・決算 (海外子会社P/L換算) 要因 +1
- < 在庫評価減 >
・在庫積み増しを主に評価減増加
- < 操業度 >
・生産物量減少による操業度低下
- < 販管費 >
・人件費 +6

【四半期】所在地別売上推移



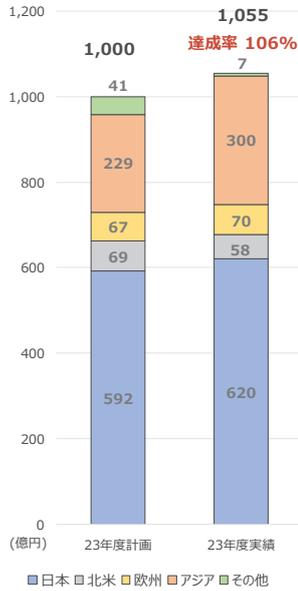
連結貸借対照表推移

	(億円)		
	22年度	23年度	前年度末比増減
資産	19,279	20,945	1,666 8.6%
流動資産	13,238	13,079	-158 -1.2%
(内 ①現預金)	(6,035)	(5,112)	(-923) (-15.3%)
(内 ②営業債権)	(2,288)	(2,176)	(-111) (-4.9%)
(内 ③有価証券)	(199)	(0)	(-198) (-99.8%)
(内 ④棚卸資産)	(4,186)	(5,195)	(1,009) (24.1%)
固定資産	6,040	7,865	1,824 30.2%
(内 ⑤市場価格のある投資有価証券)	(762)	(1,550)	(788) (103.5%)
(内 ⑥保険積立金)	(1,439)	(1,471)	(32) (2.3%)
*換金性のある資産 ①+②+③+④	8,436	8,135	-300 -3.6%
負債	2,256	2,086	-169 -7.5%
流動負債	1,888	1,646	-242 -12.8%
(内 営業債務)	(736)	(588)	(-148) (-20.1%)
固定負債	367	440	73 19.9%
純資産	17,023	18,858	1,835 10.8%
自己資本比率	88.1%	89.8%	+1.7
1株当たり純資産(円)	26,331	29,338	+3,007
ROE	13.8%	10.0%	

	(億円)		
	22年度	23年度	前年度末比
棚卸資産合計	4,186	5,195	1,009
商品及び製品	1,652	1,973	320
仕掛品	313	372	58
原材料及び貯蔵品	2,219	2,850	630
為替の影響			210
在庫評価減の影響			-241
実質増減			1,040

	(億円)		
	22年度	23年度	前年度末比
期中平均月商倍率	6.1	8.0	1.9
期末月商倍率	5.6	7.9	2.3
期末為替レート			
ドル	133.54	151.40	+17.86
ユーロ	145.72	163.28	+17.56
人民元	19.42	20.84	+1.42

設備投資の状況



(単位: 億円)

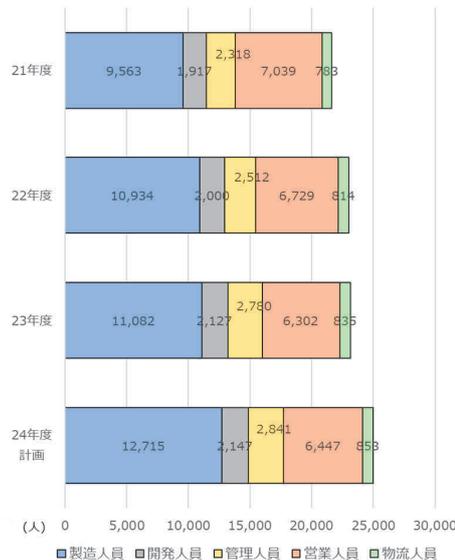
用途	地域	2023年度		2024年度計画	
		実績	案件	計画	案件
製造	国内	266	遠野工場 釜石工場 下妻工場	309	遠野工場 下妻工場 釜石工場
	海外	308	ベトナム製造 中国・天津・北京製造 SMC アメリカ SMC 韓国	571	ベトナム製造 SMC 韓国 中国・天津・北京製造 SMC チェコ
本社 開発 販社 物流	国内	354	新技術センター 新本社 東西ロジ	111	新本社 新技術センター 東西ロジ
	海外	127	SMC チェコ SMC アメリカ SMC ドイツ SMC 中国 (販売) SMC オーストラリア	209	SMC 中国 (販売) 中国開発拠点 SMC 台湾 SMC オーストラリア SMC マレーシア
合計		1,055		1,200	

【年度】社員数推移

①地域別



②部門別



21,620
海外社員比率70%

22,988
海外社員比率72%

23,127
海外社員比率71%

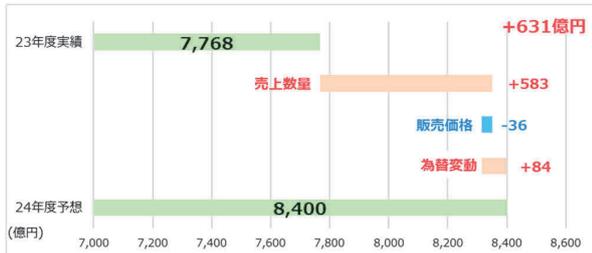
25,002
海外社員比率73%

年度業績予想

	22年度実績		23年度実績		24年度予想		23年度比 (23年度 vs 24年度)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	8,247		7,768		8,400		631	8.1%
売上原価	4,036	48.9%	4,137	53.3%	4,280	51.0%	142	3.4%
売上総利益	4,211	51.1%	3,630	46.7%	4,120	49.0%	489	13.5%
販売管理費	1,629	19.8%	1,668	21.5%	1,780	21.2%	111	6.7%
営業利益	2,582	31.3%	1,962	25.3%	2,340	27.9%	377	19.3%
経常利益	3,059	37.1%	2,510	32.3%	2,740	32.6%	229	9.2%
当期純利益	2,246	27.2%	1,783	23.0%	1,940	23.1%	156	8.8%
期中平均為替レート								
ドル	135.56		144.58		146.00		+1.42	1.0%
ユーロ	141.05		156.74		158.00		+1.26	0.8%
人民元	19.75		20.13		20.50		+0.37	1.8%
設備投資	815		1,055		1,200		144	13.7%
減価償却費	257		333		440		106	31.9%
研究開発費	273		311		350		38	12.4%
年間配当(円)/株	900		950		1,000		50	

【24年度業績予想値 vs 23年度実績比】売上高・営業利益増減要因

① 売上高



- < 売上数量 >
 ・日本 +66 海外 +517
 北米・アジア・欧州など全ての地域で増収
- < 販売価格 >
 ・日本 -2 海外 -34
- < 為替変動 >
 ・北米 +19
 アジア +71

② 営業利益

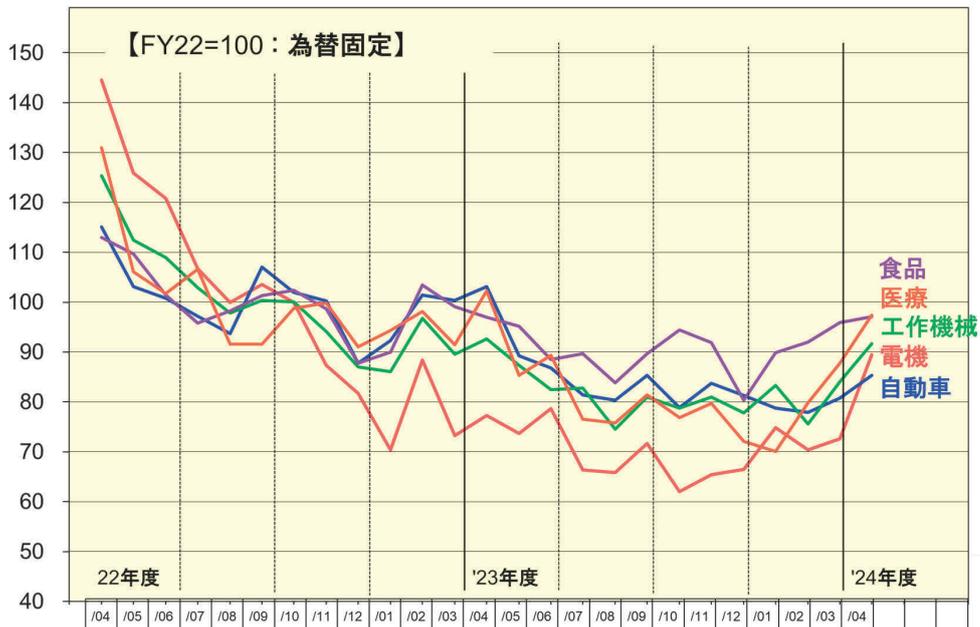


- < 為替変動 >
 ・為替を円安で見込んでおり輸出採算向上と海外子会社P/L換算利益が増加
- < 在庫評価減 >
 ・在庫積み増しが減少した事を主因に評価減減少
- < 操業度・他 >
 ・生産物量が増加となり操業度の上昇を見込むも、材料費の増加も見込まれる。
- < 販管費 >
 ・人件費 -33、減価償却費 -24、運送配送費 -12、支払手数料 -5

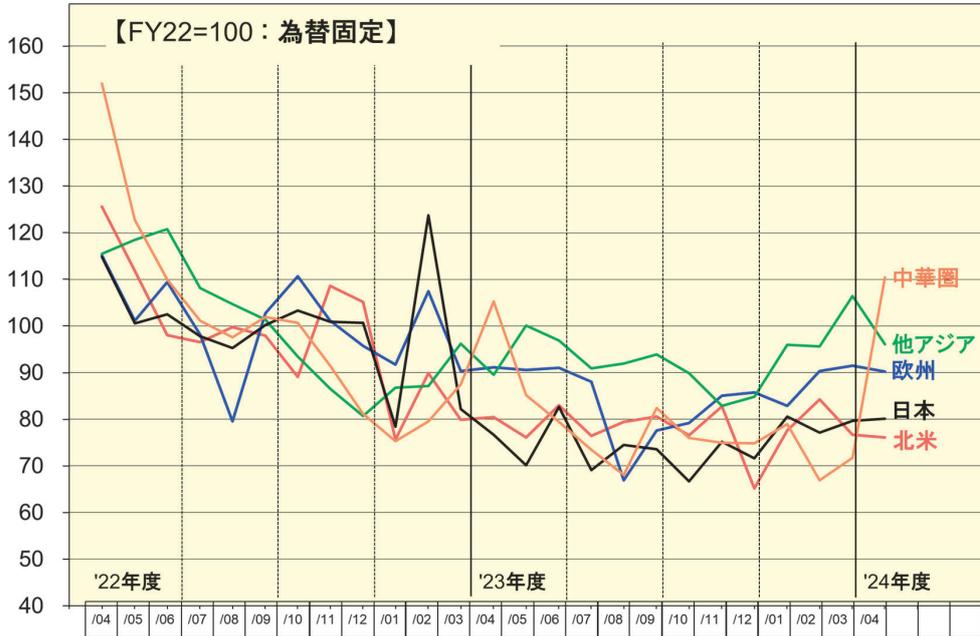
足元の受注動向（FY22=100）

		FY23	'23/3Q	'23/4Q	'24/04	4月の状況
連 結	電機	70	65	73	89	中国、韓国、台湾が増加
	自動車	84	81	79	85	日本は弱含み、中国は増加
	工作機械	82	79	81	92	中国が増加、他地域は横ばい
	食品	91	89	93	97	アメリカ・中国が増加
	医療	81	76	79	97	日本は減少、中国が増加
	その他	91	91	94	100	
日 本		74	71	78	80	電機は横ばい、自動車は弱含み
北 米		78	75	79	76	電機が減少、自動車は横ばい
欧 州		85	83	88	90	電機は増加、他業種は弱含み
中華圏		78	75	73	110	電機を中心にすべての業種が増加
その他アジア		93	86	99	96	自動車は減少
連 結		81	77	82	93	

受注推移（業種別）



受注推移（地域別）



本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

そのため、実際の業績はさまざまな複合的要素により、記載された見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、予めご承知おさください。

ご清聴ありがとうございました。

Supporting Automation

